



桶川市長
小野 克典

グループ作業では皆さんそれぞれが、積極的に自分の意見を出し合っていました。そして、短い時間の中で協力し合い、グループとしての考え方をまとめ、わかりやすく発表してくれました。子どもたちからいただいた貴重な提案は、今後のまちづくりに活かしていきたいと思います。



平成29年度桶川市子どもフォーラム
～一人一人が かがやき 元気いっぱいな 桶川市～

平成29年度 桶川市子どもフォーラム

～一人一人が かがやき 元気いっぱいな 桶川市～

詳しくは☎秘書広報課

参加者（敬称略・順不同）

西 小：伊藤朱澄、菅野遥、太田百香
加 納 小：岩崎琴凜、吉田十葉
川田谷小：石井里歩、小峯穂乃花
東 小：戸倉翔大、吉原慎人、橘彩嘉、横本彩海
日出谷小：中島華恋、宮本康平
朝 日 小：野中佑里渚、下田莉子、畠史弥
桶 川 小：加藤勇氣、巢瀬有加、中村紅玲

市内の小学6年生の代表者19人が参加した「桶川市子どもフォーラム」が、8月2日(水)、市民ホールを会場に開催されました。

「子どもフォーラム」は、桶川市の将来を担う子どもたちが、自分たちの住んでいる桶川市のまちづくりについて意見交換し、市への愛着や関心を高めることを目的に開催しています。当日はテーマ別に4グループに分かれ討議を行い、グループでまとめた内容を発表しました。各グループの発表内容の概要をご紹介します。

Cグループ

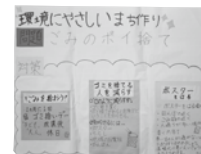
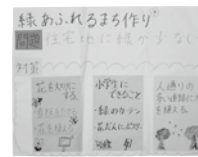
発表内容

「緑あふれる、環境にやさしいまち（環境）」



■課題

- ①ごみのポイ捨てによって道路にごみが落ちている
- ②住宅地に緑が少ない



■改善案

- ・市民参加型の「ごみ拾いデー」を作る
- ・ポイ捨て禁止のポスターを作り、注意喚起する
- ・道路の横に木を植えて緑を増やす
⇒日影ができて、夏でも涼しく歩ける！

■将来像

日本で一番空気や環境が良い市にする

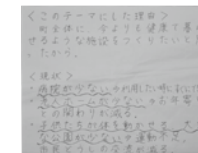
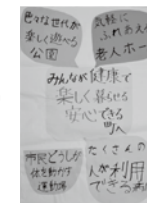
Aグループ

発表内容

「誰もが暮らしやすいまち（福祉・健康）」

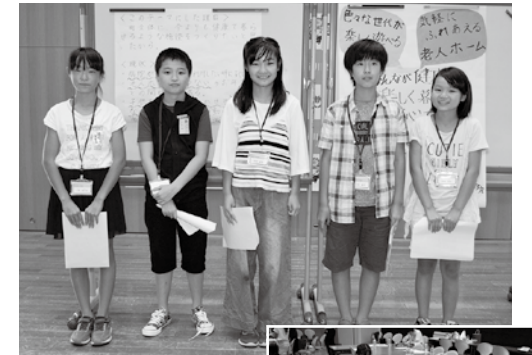
■課題

- ・老人ホーム、病院、大きな公園が少ない
- ・自然にふれあえる緑いっぱいの場所が少ない
⇒人や自然との関わりが減ってしまう



■改善案

- みんなが健康で楽しく暮らすことができる施設を造る
- ・気軽に遊べてスポーツもできる緑いっぱいの大きな公園
 - ・住宅街に誰でも利用できる病院
 - ・お年寄りの方とふれあえる老人ホーム



Dグループ

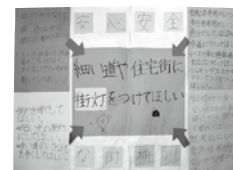
発表内容

「安心安全なまち（安心安全）」



■課題

- ①細い道や住宅街に街灯が少ない
⇒夜に安心して外出できない
- ②自転車が歩道を通行していて危ない



■改善案

- ・もっと明るい街灯を設置する
- ・環境にも配慮した太陽光発電式の街灯にする
- ・ジョギングコースとサイクリングコースをつくり、明確に分ける

■将来像

街灯を設置して夜の事故を減らし「安全なまち」として有名にする

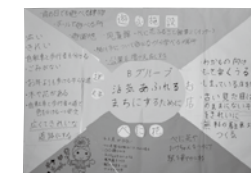
Bグループ

発表内容

「活気あふれるまち（産業観光）」

■課題

- ・観光施設や有名なものが少ない
- ・桶川市自体があまり有名でない



■改善策

- ・商業施設などで誰でも参加できるイベントを開催する
- ・中山道沿いのお店を整備する
⇒外観は昔のまま、内装をリフォームし魅力アップ
- ・べに花やオケちゃんを使って駅周辺を華やかにする



この「子どもフォーラム」の紙面は、インターンシップに参加した学生が作りました。



三上祐輝さん

自ら命を断たないで

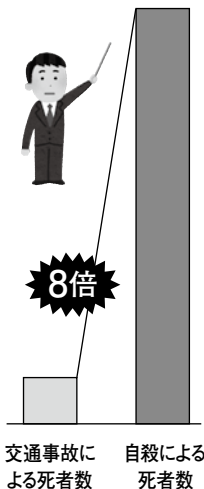
— 9月10日から16日は 自殺予防週間です —



この世に生を受けた人が
自ら命を絶つ——「自殺」。
死にたい・・・
でも待って！
生きたい！
・・・いつかそう思えるはず。
生きて！
あなたはだれかに
愛されている。

数字で自殺を考える

全国の自殺者数は、平成24年に3万人を下回り、その後年々減っています。
埼玉県でも平成21年の1,796人をピークに、年々減少傾向にあります。それでも平成28年の自殺者数は1,254人でした。これは交通事故による死者数(151人)の約8倍です。



桶川市でも、平成21年の25人をピークに減少傾向にはありますが、昨年は14人の尊い命が失われました。

桶川市自殺者の数	
H21	25
H22	22
H23	15
H24	17
H25	23
H26	10
H27	11
H28	14

— 埼玉県の統計をもとに、男女比で見ると、男性は女性のほぼ2倍です。年代では40代が最も多くなっています。また、原因別で最も高かったのは、うつ病などの精神障害の約50パーセントでした。

あなたと、あなたの周りの命を守るために、覚えておいてほしいこと

「こころ」の赤信号に
気づきましょう！

「こころ」の病気は、自ら命を絶つような深刻な事態を招くことがあります。うつ病をはじめとする「こころ」の病気は、ストレスの蓄積が大きな原因となります。「病気や介護などの健康問題」「失業・借金などの経済問題」「過重労働や職場の人間関係」など、ストレスの要因は年齢や性別、立場によって様々です。結婚や就職・昇進など、明るいライフイベントも不調のきっかけになることがあります。「こころ」の赤信号が灯る前に、自分の周辺にあるストレス要因を知っておくことが大切です。

あなたや あなたの周りの人に
こんな様子はありませんか？

- ☐ なかなか寝つけない、夜中に何度も目が覚める
- ☐ 長時間眠ったのに、熟眠感がない
- ☐ 食欲がない、食べ物がおいしくない
- ☐ ちよつとしたことで、涙が出る
- ☐ 何もする気がしない、楽しくない、疲れやすい
- ☐ 表情が暗く、元気がない
- ☐ 体がだるい、頭が痛い、めまいなど体調不良が続いている

あてはまる場合は、早めに専門医などに相談することが大切です。



あなたの周りで「SOS」を発している人がいたら...

悩みや不安を抱え、苦しんでいる人を「命を断つ道」へ向かわせないために、行動する4つのポイントがあります。

①気づく

「最近、表情が暗く、元気がないな」「ずっと体調が悪そうだな」など、周りの人の変化に気づいたら「元気がないけど、どうかしたの?」「調子悪そうだけど、眠れている?」などと思いきって声をかけてみましょう。悩みや不安を抱えている人は、自分から相談できなかったり、知らず知らずスレスレが溜まっていて、体調が悪化している場合があります。



②相手の気持ちに寄り添い話を聞く

話しやすい場所で、話をせかさず、ゆっくり相手の話に耳を傾けましょう。「死にたい」と打ち明けられても、うろたえずにその気持ちを受け止め、「大変だね」「つらいね」「よく頑張ったね」など相手の気持ちに寄り添うことが大切です。また、ひととおり話を聞いたら、「話してくれてありがとう」と感謝の気

ひとりで悩まないで相談しませんか？

① 総合相談会

東日本大震災被災者等
暮らしとこころの総合相談会

in 桶川

多重債務や失業など生活上の悩みやこころの健康(心身の不調、不眠など)について、弁護士・司法書士・社会福祉士・精神保健福祉士・臨床心理士・保健師が話を伺い、改善策と一緒に考えます。被災者以外の相談も受け付けます。気軽に申し込んでください。

とき▼9月20日(水)午前11時～午後3時(申込み時に時間を決めます。)

ところ▼保健センター

申込み・問合せ▼「暮らしとこころの総合相談会」事務局 ☎782-4675 (平日午前10時～午後5時※9月20日は午後2時まで)

② 相談窓口

★さいたまいのちの電話

■相談電話: 645-4343 (24時間365日)

■毎月10日のみフリーダイヤル: 0120-783-556 (朝8時～翌朝8時)

★県立精神保健福祉センター

■電話相談「こころの電話」 ☎723-1447 (月～金曜日、祝日を除く) 午前9時～午後5時

■来所相談

予約専用電話: ☎723-6811 (月～金曜日、祝日を除く) 午前9時～午後5時

★市保健センター

☎786-1855 (月～金曜日、祝日を除く) 午前8時30分～午後5時15分

★鴻巣保健所(精神保健担当)

☎048-541-0249 (月～金曜日、祝日を除く) 午前8時30分～午後5時15分

自殺予防週間にあわせて、啓発活動をお願いします

期間中、桶川駅周辺で、こころの健康についてのリーフレットと啓発物品(ボールペンなど)を配布します。

※3月の自殺対策強化月間でも実施します。



災害から命を守ろう！



地震や暴風暴雨などの災害から命を守るためには、日ごろからどのような準備をしておくべきか、いざという時には何をすればよいのか、改めて考えましょう。

詳しくは  安心安全課

自助について

～自分の身は自分で守る～

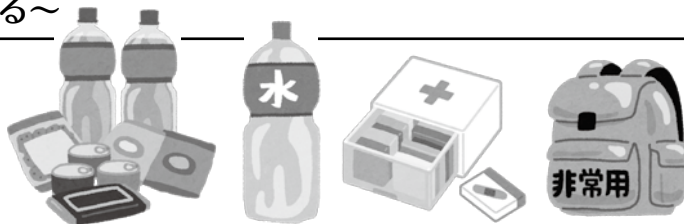
▶ 災害が起きる前に・・・



緊急時の連絡先を確認



家具の転倒防止



最低3日分（できれば1週間分）の水や食糧、生活物資などを備蓄。
特に水は必需品（1人1日3リットルが目安）

▶ 災害が起きたら・・・

地震



○身の安全を確保



○慌てず火の始末



○外に飛び出さない



○出口を確保



○正しい情報を入手

暴風暴雨



○窓から離れる



○早めの避難



○危ない場所は避ける

災害への対応を防災学習センターで学ぼう

地震や暴風などの災害を疑似体験し、防災を楽しく学べます。講演会やイベントも行っています。詳細は防災学習センターにお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

住所：鴻巣市袋30番地
電話：048-549-2313



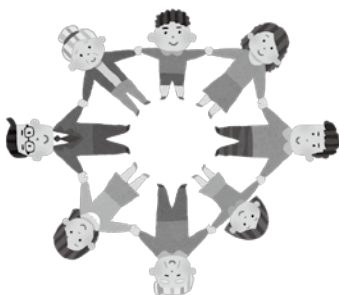
埼玉県防災学習センター

共助について

～自分たちの地域は自分たちで守る～

地域での防災を担うのは自主防災組織です

自主防災組織とは、災害による地域の被害を予防・軽減するために地域住民主体で作られ、いざというときに、防災活動の主力となる組織です。



自主防災組織の活動の様子

日出谷団地自主防災会では、防災に関する講座を実施し、約50人が参加しました。防災知識の向上と住民同士の交流が図れる講座となりました。他の自主防災組織でも定期的に防災訓練などの活動を行っています。

（7月17日 日出谷団地集会所）



市の取組みについて

市では大規模災害が発生した場合、被災状況の調査を行い、避難所を開設します。避難所の運営は、市と地域住民が協力して行います。また、市では災害が発生した場合に備え、避難所での生活に必要な食糧、生活用品などを備蓄しています。そして、地震の揺れやすさや洪水での危険な地域などの災害情報をわかりやすく記した「桶川市防災ガイド」の配布や、震度情報や気象警報情報をメールで配信する「桶川市防災情報メール」の配信をしておりますので、日ごろの災害への備えに活用してください。

桶川市防災情報メール▶

